

JTU きょうと教組

日本教職員組合

NEWS LETTER

2022年2月1日発行 No.165
 京都府教職員組合 小鍛冶 啓
 Kyoto School Staff Union
 Tel:075-252-6771
 Fax:075-252-6772
<http://kyoto-union.net>



第26回近畿ブロック青年部交流学習会 in 奈良

「今回の**標語**は『こんな時代だから・・・**今日**という日は、人の**多さ**加減して・・・**短期集中!**
おう!みんな集まれ♪奈良でだいぶ強い組織作りましょ!』という呼びかけで、第26回近畿
 ブロック青年部交流学習会が1月8日(土)、奈良で行われました。

この呼びかけに込められた思いが分かるでしょうか?近畿ブロックへの奈良教組の愛がこも
 っています。

さてこの学習会に京都からは、京都八幡高校の竹花さんと宇治市立御蔵山小学校の西田さん
 が参加しました。コロナ禍での開催のため、参加体験型の分科会や、例年大きく盛り上がる交流会
 はありませんでしたが、他府県、様々な校種の参加者との交流は、新たな気づきや、視点が得られ
 る有意義な場となりました。以下、参加された方からの素敵な感想です。

—— 学校は素敵な職場だけれど! ? ——



初めて青年部交流学習会に参加させて頂き
 ました。このような社会情勢の中、様々な地域
 の方々と交流する事ができ良い経験になりま
 した。また、他校種を含む色々な視点から教育
 について学ぶことができ、翌日からの勤務が楽
 しみになった1日でした。

特に印象的な内容として、分散会にて、「学
 校現場の欠員」との話がありました。教員は子
 どもたちの輝く姿を1日の中で一番長く見ることのできる素敵な仕事と感じています。しかし、
 今回の交流の中で、各勤務校では校務分掌の偏りや職員間のコミュニケーション不足、連携が
 少ない等の多くの問題点が挙がりました。多くの参加者から頷きがあり、そのような状態では
 教員のなり手が少なくなること、離職が多くなることは必然だと感じました。

「やりがいだけでは続けられない」とはまさにこのような事だと思いました。このような環
 境を変えていく一つの方法として組合での活動が大切だと今回改めて再確認することができ、
 貴重な時間となりました。

(宇治市立御蔵山小学校 西田 凌己)

奈良教組の歴史の重みを実感



1月8日の近プロ青年部交流学习会に参加しました。

当日は新型コロナウイルス再拡大の影響で、残念ながら全体講演から分散会会場でオンラインではありましたが、奈良教組初代書記長の高松さんのお話は、70年代から90年代頭にあった出来事を、時に生々しく語ってくださり、再建時の雰囲気の一

端を伺い知れるものでとても勉強になりました。今の自分は少なくとも人権のことについて、きょうと教組の中でとても安心して活動を行うことができますが、これがもしも組合や職場で孤軍奮闘せねばならない状況になった時、それでも自分の信念を曲げずに子どものために闘い続けることができるのか、考えずにはいられませんでした。どんな時でも現状を精査し、意見をかわし、疑問を抱き、時に抗うということの重要性を教えていただけたように思います。

また分散会では特にコロナ禍の中で青年部活動をどのように工夫しているのかや、学校現場での人材不足やICT活用の課題などについて共有しました。毎度のことではありますが、校種も自治体も組合の規模も違っている青年部の仲間と話をすることは、様々な刺激とアイデアをもらうことができますし、「困っているのは自分だけではない」という素朴な連帯感を得ることができ、活力をもらえます。

改めて出会うことの大切さを感じることができた、よい学習会でした。

(京都八幡高校 竹花 惇)

2022・2023年度 きょうと教組役員選挙が始まります

きょうと教組役員選挙が始まります。積極的に組合活動をと考えている方の立候補を期待しています。また、組合運営を託せる人を選ぶ大切な機会でもあります。選挙公示と立候補届は、今回ニュースレターに同封してありますので熟読ください。投票用紙などの選挙関連情報は、きょうと教組からの郵送物でお送りします。かならず開封して確認してください！

